

書字障害児へのタブレット PC 利用と教師の力量形成

兵庫県加東郡社町立社小学校 教諭 小林 茂 kobatti@plum.ocn.ne.jp
兵庫教育大学大学院 院生 橋本 岳 m04314d@students.hyogo-u.ac.jp
兵庫教育大学 教員 成田 滋 naritas@ceser.hyogo-u.ac.jp

キーワード：タブレットPC，書字障害，軽度発達障害，指導改善，教師研修

1. はじめに

軽度発達障害児が、個別の指導を十分受けることなく通常学級で学んでいる実態が憂慮されている。多くの教員は、発達障害の特徴や子どもの基本症状、指導方法などについての知識と経験が不足しているといわれている。特に、普通学級や特殊学級で軽度発達障害児を指導する教員の教材活用に関する研修は不十分であり、教員の力量の形成は焦眉の課題となっている。

2. 研究目的

軽度発達障害のある子どもたちにとって、学習上の困難さの中で最も指導の必要性が高いのは書字と読字であることが多い。子どもたちを指導する専門性を持った教員は非常に不足している。そこで本研究は、タブレット PC 上での書字の基礎的な力を培う教材を使い、教師の書字指導技術の向上を図るために、効果的な教材活用の研修の在り方を分析することである。

3. 研究方法

3.1 研修で利用した教材

文字を書くためには、視覚情報の分析、統合、記憶や目と手の運動の調整などの複雑で高度な能力が必要である。そこで教材は次の4つの操作を必要とする課題から構成した。(1) 協調運動(点つなぎ課題、迷路課題、線なぞり課題)、(2) 視知覚操作(選択抹消課題、図と地の弁別課題)、(3) ひらがなの書字練習、(4) 小学校1学年の漢字書字練習。

3.2 研修形態

研修の形態は、教室などでの対面での集合研修と遠隔でのオンライン研修に分けられた。集合研修は、タブレット PC を使った教材の活用の仕方、留意点などを体験的に学習する機会である。この研究の一環として2005年度は2か所で研修を行った。一つは兵庫県にある北播 LD 研究会が主催する公開学習会「タブレット PC を使った書字指導」と、日本支援教育実践学会との共催で開いた軽度や重度の発達障害児を指導する教員に対するハンズオンによる教材活用の研修であった。

もう一つの研修形態は、オンライン上での音声会議という研修である。音声会議は、ビデオカメラを使わず、あらかじめ参加者が用意した資料を参加者が画面で見ながら討議するというものである。音声会議は Web ベースとなっており、ネットワークに繋がるパソコンとヘッドセットがあれば誰でも参加できる。研修の仕方は、あらかじめメールで研修の日時と討議話題、共有する資料を各自が用意するように予告する。今回オンライン上での研修に使用したツールは Talking Communities(TC)というソフトである。討議用の資料は、Web サイトはもちろん、各種のアプリケーションソフトで作られたファイル、その他ビデオ画像も展開でき、それを参加者全員が視聴することができる。参加者は音声と資料に集中し討議を進めることができた。



図1 音声会議の画面

4. 研修の成果と今後の課題

ネット上での音声会議による研修は、参加者は移動の距離と時間に拘束されないこと、どこからでも参加できること、全く費用を要しないことなどの利点があった。ツールは使い方が容易で、どの参加者からもきわめて好意的な意見が寄せられた。例えば、タブレット PC の諸機能や教材の改善点や指導上の工夫などが、参加者の経験に基づいて十分討議され、教員の指導力向上に役立つことが判明した。こうしたオンライン上の研修では、参加者の意図が音声と資料をとおしてしか伝わらないので、司会者は会議ツールの効果的な使い方に習熟しておく必要がある。特に、参加者が10名以上になると質疑応答が困難になるので、司会者は発言話題、内容、時間などに絶えず集中して、参加者すべての参加度に注意を払わねばならない。